

「仁」の思想入門

周が衰え、諸侯の治める国々が乱立した春秋戦国時代。各国は富国強兵を図り、人材を広く求めたため、儒家・道家をはじめ思想家が数多く生まれた。孔子に代表される「儒家」の思想の中心にあった考え方が「仁」である。

孔子は、「仁」と「礼」を身に備え、道を求めて不断に修養する者を君子と呼び、君子が為政者となって民を治めることが政治の理想であると考えた。孔子は、祭祀儀礼に深く通じていたと伝えられ、周の衰退とともに失われた「礼」の復興に努めた。彼の関心は自然の神秘を探究したり死後の安寧を問うことにはなく、現実社会で「仁」を実践する方法・態度としての「礼」とそれよって実現すべき人間の正しいあり方に向いており、この人間として最も望ましいあり方を「仁」という言葉で示した。「仁」とは、他者をいつくしみ愛する心である。

孔子は、「仁」という心のあり方を、「忠恕」という言葉で説明している。「忠恕」は、自己の良心に忠実であることを指す「忠」と、他人の身になって考える誠実な思いやりを指す「恕」からなる。また、この「忠恕」の根底には、親・親族に対する情愛「孝」と友人・知人への情愛「悌」からなる「孝悌」があるとした。孔子は、「孝悌」にみられるような家族や身近な人への情愛を根底にして、「仁」という思想を説いた。

